2025年度 学校評価報告書　　神戸大学附属小学校

A学校教育目標
国際的視野を持ち，未来を切り拓くグローバルキャリア人としての基本的な資質の育成 ［自律］自ら進んで生活を築いていく子ども ［尊重］国際的な視野と広い心を持ち，互いを尊重し合う子ども ［創造］豊かな感性と探究的な思考力を働かせて，文化を創造していく子ども

Bめざす学校像	C育てたい力・態度		D育て方の方針	【評価項目】 F育て方の具体／重点事項等		自己評価
B1 子どもに対して，自律，尊重，創造に関わる力や態度を育む教育活動を展開することで，学校教育において，「めざす子ども像」の実現を支援する役割を担う。	自律	C1 自分の生活を自分でコントロールする力や態度 C2 みんなにとってのよりよい生活を考え，そのために自分ができることをする力や態度	D1 「小さな社会人」として，信頼されるふるまい方を知ったり，考えさせる。	F1	附小のくらしの検討によって，自分が所属する集団に必要なきまりを考える機会を設定し，その機会を活用した指導をすることができたか。	児童アンケートにおいて，「私は以前よりみんなにとってのよりよい生活を考え，そのために自分ができることをしている」とふりかえる児童の割合を90%以上にすることを指標とし，左記の取り組みを実施した結果，肯定的な回答をした児童の割合が95%であった。学校のきまりである附小のくらしの検討をすることを通して，今ある「きまり」の意義や「きまり」の価値について考える機会を得ることができ，結果として左記の自律C2にある育てたい力・態度の育成につながるきっかけとなったと考えられる。
	尊重	C3 他者とは異なる自分の文化や考えを大切にしようとする力や態度 C4 自分とは異なる他者の文化や考えを楽しみ，大切にしようとする力や態度 C5 自他の存在や行動を価値付けることができる力や態度	D2 自分を表現する経験とともに，自分とは異なる文化や考え方の良さを感じる経験を豊富に設定する。	F2	学年担任制，授業サポーター制の創造的な運営等によって，教師の指導性を適切に発揮し，日々の学習において，主体的・対話的で深い学びを実現することができたか。	児童アンケートにおいて，「私は，以前より自分の考えを大切にしている」とふりかえる児童の割合を90%以上にすることを指標とし，左記の取組を実施した結果，肯定的な回答をした児童の割合が94%であった。学年担任制，授業サポーター制を導入して6年目を迎え，安定した運営のみならず左記の取組を充実させる学年の実態に応じた創造的な運営が進んだ成果だと考えられる。
				F3	異年齢集団での学習を主軸にした特別活動を充実させることができたか。	日々の清掃活動を中心としながら，出会いの会，1年生を迎える会，なかよし班遠足，スポーツデー，ありがとうの会を通して左記の取組を実施した。特に今年度は児童が「思考する機会」を可能な限り設定した。具体的には，ふりかえりの充実を図ること，子ども達に委ねる場面を豊富に設定することに取り組んだ。
	創造	C6 前例，他者等に依存せず，自分の置かれた状況において，工夫してよりよいものを作り出そうとする力や態度 C7 他者と質の高い合意形成をする力や態度	D3 合意形成を図る過程でその「難しさ」と「大切さ」を感じる経験を豊富に設定する。 D4 子どもの感性を刺激する知的な教育活動の提供する。	F4	大学との連携・共同研究，並びに大学附属間の交流を通して，知的好奇心を喚起することができたか。	大学との連携としてプロジェクト研究を行い，その成果を国内外の学会で発表したり，論文としてまとめたりすることで研究の充実を図り，それら学術的な視点を取り入れた学習を児童に提供した。また，幼小連携部，小中連携部を中心として幼稚園，中等教育学校の子どもと関わる学びの場を設定するとともにに，総合的な学習の時間を通して特別支援学校の子どもと関わる学びの場も設定した。国際交流部を中心として，海外との子どもとの交流を実施した。
B2 保護者に対して，子どもに自律，尊重，創造に関わる力や態度を育むための情報発信・交流の機能を果たすことで，家庭教育において，「めざす子ども像」の実現を支援する保護者をサポートし，導く役割を担う。				(B2)	保護者に対して，子どもに自律，尊重，創造に関わる力や態度を育むための情報発信・交流の機能を果たすことで，家庭教育において，「めざす子ども像」の実現を支援する保護者をサポートし，導く役割を担うことができたか。	保護者アンケートにおいて，「学校は，懇談会，学校HP，学校だより，学年だより等で，教育活動の方針や手立てをわかりやすく伝えている。」とふりかえる保護者の割合を90%以上にすることを指標とし，学校懇談会，学年懇談会，学校だより，学年だよりなどで，工夫した情報発信をした結果，肯定的な回答をした保護者の割合が97%であった。学校の教育活動の意図が十分伝わらず，解釈に齟齬があることがアンケートなどからわかった場合は，電話連絡等で直接コミュニケーションを取ることで，意思疎通を図った。
B3 教育界（学会や他学校園等）に対して，大学との連携による学術的な知見と，現場における実践的な知見とを融合した研究成果を発信することで，実践的研究の中核拠点としての役割を担い，教育の質的向上に寄与する。				(B3)	本校の研究成果・特徴ある取組を外部発信することができたか。 大学の教育実習計画に基づく教育実習を実施することで，学生の学びを保障することができたか。	6月，2月に校内全体の研究公開を実施し，大学との連携による研究の成果と学年担任制等の本校の特徴ある取組を外部発信した。参加者は年間を通して200名程度であった。また，プロジェクト研究や教科・領域等研究の部会でも授業公開等を行うことで，本校の研究や特色ある取組を発信し，実践的研究の中核拠点としての役割を担った。教育実習は，8月末から約1か月実施し，40名程度の学生を受け入れた。教員からの講話と学年別の実習を組み合わせることで，学生の実践的な力の育成に寄与した。

学校関係者評価	次年度に向けて
・きまりについて検討することを通して，「きまり」の意義や「きまり」の価値について考えさせることは子ども達の育てたい力・態度の育成に効果的だと考えられる。今後，この取組を続けていくことで，子ども達が自分たちの生活をよりよくするための新たな「きまり」を創造する姿が楽しみである。 ・教育課程特例校の指定を受けて実施している1，2年生の「せかい」で学んだことを発信する場として国際交流の活動を位置付けることで，異文化に触れるという目的意識をもった教育活動が実現されており，その意義についての外部評価では，86%が「非常に高い」14%が「高い」との評価を得た。 ・学年担任制や教科担任制など特色のある教育を実施し，そこで生み出された時間を新たな教育活動の創造や授業研究や学術研究に充てて，子ども達の学びの充実を図っている点が評価できる。	・本校の特色ある取組について、さらなる充実を図る。具体的には、たて割り班を中心とした特別活動の一環として、4・5・6年生を対象とした「リーダーズキャンプ」という新たな取組を実施する。これにより、高学年児童が学校のリーダーとして、自らの役割や果たすべき責任について主体的に考える機会を設け、たて割り班活動の一層の充実を目指す。 ・次年度に予定されている校舎改修に際しては、子どもたちを新しい環境の単なる「受け手」とするのではなく、学習環境を自ら整え、創り出す「創り手」として育成することを目指す。そのため、本改修を積極的な教育活動の機会と捉え、重点的に取り組んでいく。 ・教育のパートナーとして保護者との連携を一層強化し、教育の充実を図る。「自分の子どもだけでなく、附属小学校のすべての子どもを育てようとする保護者」という目指す保護者像の実現に向け、学校懇談会等を通じて保護者同士が交流する機会を計画的に設定する。